

薬剤科

小森 勝也

薬剤科では、当センターの運営方針に基づき、10項目（薬剤管理指導業務の推進、業務システムの効率的運用、材料費の縮減、がん化学療法における安全および質の向上、チーム医療への積極的関与、医療安全への確保・診療の質の向上、専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進、治験・臨床研究の推進、薬学生長期実務実習受入体制の充実、教育および研究業務の充実）を基軸として、各種業務を実践している。また、実践業務においては医療安全の確保と経済性効率を勘案しつつ、医師、看護師、その他、多くの職種の方々の協力を得ながら主体的に薬物療法に参加することで、医薬品の適正使用推進に向けて日々努力している。

1. 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

薬剤管理指導業務は救命救急センターを含めた全病棟を対象に行っており、各主任をヘッドとしたチームに副主任を配置することで一層の業務効率化を図っている。(1,559件/月)

全入院患者の持参薬情報は電子カルテに入力し、医師へ情報提供を行っている。

常駐薬剤師による一般注射薬無菌調製は、薬剤師が患者個々の検査データ、薬剤溶解時の安定性・配合変化チェック、回診カンファレンスにおける情報収集（投与中止、重複処方、投与量の変更確認、開始時間の確認）をもとに病棟クリーンベンチ内で実施している。(3,930本/月)

2. 抗癌剤・IVH 製剤の無菌調製

良質な医薬品の供給を目的に、薬剤科注射薬室の無菌室において一元的に、クリーンベンチ・安全キャビネットを用いた無菌混合調製を実施している。

抗癌剤に関しては平成14年7月に外来化学療法室が開設され、全診療科の外来患者を対象に月間約1,250本の無菌調製を行っている。また入院患者に対しては、17年度より取り組みを始めており、平成23年度は月間約500本の調製を行っている。また、がん薬物療法委員会において承認されたプロトコルを対象に、薬剤科でプロトコルチェックを行い、安全管理の徹底を図っている。

3. 医薬品情報管理（収集・評価・提供）

医薬品は、医薬品の使用者である患者の有効性・安全性を確保するために、適正に使用されなければならない。情報化社会の現在、医療の中で取り扱う情報は、正確かつ適正に管理される必要がある。薬剤科では医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、厚生労働省への副作用報告も積極的に行っている。(10件/年)

4. 治験業務

適正な治験実施については、国際的な評価に値する臨床データの作成が求められており、厚生労働省としても新GCPに基づく治験の実施について指導を強化しているところである。当薬剤科にあっても治験支援業務を行う専任薬剤師CRC（治験主任薬剤師1名、薬剤師1名）を配置している。

5. HIV 感染症患者への服薬支援の強化

HIV 感染症患者に対しては、担当薬剤師3名（専従2名、併任1名）を配置することで円滑な服薬支援体制を構築している。また、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」を新たに設置し、薬剤師が常駐することで患者動線の改善、医師・看護師との緊密な連携が強化でき、より多くの長期

患者に対してのフォローが実践できている。(240件/月)。

6. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設の認定を受けている。また、薬学部6年制に伴う薬学生長期実務実習生は15名を受け入れている。

7. チーム医療実証事業

厚生労働省の委託事業として「薬剤師病棟常駐」「ICUにおけるチーム医療(薬物動態を中心とした集中管理)」「HIV診療におけるチーム医療(薬剤師外来常駐)」の3題が採択され、成果を報告した。

8. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

今年度は、国際学会誌に1論文、国際学会に3題報告した。

【2011年度研究発表業績】

A-0

Munehiro Yoshino, Hiroki Yagura, Hiroyuki Kushida, Hitoshi Yonemoto, Hiroki Bando, Yoshihiko Ogawa, Keishiro Yajima, Daisuke Kasai, Tomohiro Taniguchi, Dai Watanabe, Yasuharu Nishida, Takeshi Kuwahara, Tomoko Uehira, Takuma Shirasaka : Assessing Recovery of Renal Function after Tenofovir Disoproxil Fumarate Discontinuation. J Infect Chemother.2011; Epub DOI:10.1007/s10156-011-0310-6

A-3

島本裕子:閉塞性動脈硬化症、薬局2011年3月増刊号 病気と薬パーフェクトブック2011、P337-341

吉野宗宏:後天性免疫不全症候群、薬局2011年3月増刊号 病気と薬パーフェクトブック2011、P877-888

関本裕美、小森勝也、嘉田晃子、宮本恵宏、鎌倉史郎:アミオダロン誘発性甲状腺機能低下症の発症頻度とその治療、Progress in Medicine、31巻増刊1号(2011)p.689-694

矢倉裕輝、吉野宗宏、栗原健、矢嶋敬史郎、谷口智宏、富成伸次郎、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨: HIV感染症患者におけるニューモシスチス肺炎に対するST合剤の投与量別副作用発現頻度と脱感作療法の検討、日本エイズ学会誌、第13巻1号(2011)p.20-25

関本裕美、河合実、吉野宗宏、早川直樹、上野裕之、坂本泰一、山内一恭、本田芳久、小森勝也: 薬剤管理指導記録のProblem Oriented Systemの鑑査とシステム検証、日本病院薬剤師会雑誌、47巻5号(2011)p.563-569

関本裕美、小森勝也、嘉田晃子、宮本恵宏、鎌倉史郎：アミオダロン誘発性甲状腺機能低下症のリスクファクターについて、医療、65 巻 5 号(2011) p.258-264

岡西康治、河合美：抗菌薬使用量調査に関するアンケート調査～ATC/DDD システムと AUD の意識調査～、日本環境感染学会誌 Vol.26(5), 2011

吉野宗宏：HIV 感染症患者に対する薬剤師の役割、大阪府病院薬剤師会雑誌平成 23 年 7 月号 P12-15

北川智子：治験のプロセスをいかに医療情報に反映させるべきか？ーグローバル監査を経験して考えたことー、薬理と治療、vol.39 no.10 2011、p.851-852

関本裕美：ICU における薬剤師の関与、平成 23 年度チーム医療実証事業報告

河合美：薬剤師病棟常駐、平成 23 年度チーム医療実証事業報告

吉野宗宏：HIV 診療におけるチーム医療（薬剤師外来常駐）、平成 23 年度チーム医療実証事業報告

B-2

Munehiro Yoshino, Hiroki Yagura, Hiroyuki Kushida, Hitoshi Yonemoto, Hiroki Bando, Yoshihiko Ogawa, Keishiro Yajima, Daisuke Kasai, Tomohiro Taniguchi, Dai Watanabe, Yasuharu Nishida, Takeshi Kuwahara, Tomoko Uehira, Takuma Shirasaka : Evaluating recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation in HIV-infected Japanese patients. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP2011), Busan, 2011 年 8 月

Yuko Shimamoto, Shinjiro Tominari, Tsuyoshi Fukuda, Kyoko Fukumoto, Kazuyuki Ueno, Kazuhiko Tanaka, Takuma Shirasaka, Katsuya Komori: Effect of Congestive Heart Failure on Vancomycin Pharmacokinetics, 12th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, Stuttgart, 2011 年 10 月

Katsuya Makihara, Hideyuki Mishima, Sayaka Azuma, Kazuyo Matsuyama, Katsuya Komori, Yuko Hasegawa, Masayoshi Yasui, Kazumasa Ikenaga, Toshimasa Tsujinaka : A pilot study of pharmacokinetically guided dose management of capecitabine in CRC patients, ASCO 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2012 年 1 月

B-3

吉野宗宏：HIV 感染症診療におけるチーム医療のあり方を探るー薬剤師の立場からー、第 21 回日本医療薬学会シンポジウム、神戸、2011 年 10 月

B-4

島本裕子、上野和行、福本恭子、田中一彦、白阪琢磨、本田芳久、山内一恭、小森勝也：救命救急

センター入院患者における低アルブミン血症がバンコマイシン薬物動態へ及ぼす影響、第 28 回日本 TDM 学会・学術大会、広島、2011 年 6 月

松山和代、里見絵理子、井上敦介、榎原克也、上田純子、尾池真理、梶原絹代、山内一恭、本田芳久、廣常秀人、小森勝也：がん性神経障害性疼痛に対するプレガバリンの使用経験、第 16 回日本緩和医療学会学術大会、札幌、2011 年 7 月 30 日

井上敦介、里見絵理子、松山和代、上田純子、尾池真理、上野裕之、山内一恭、本田芳久、廣常秀人、辻仲利政、小森勝也：24 時間持続型フェンタニル貼付剤の使用状況及び有用性に対する検討、第 16 回日本緩和医療学会学術大会、札幌、2011 年 7 月 29 日

尾池真理、上田純子、梶原絹代、四方文子、道川綾加、松本洋美、徳永尚美、井上敦介、松山和代、里見絵理子、廣常秀人：がん疼痛治療におけるオピオイドに関するインシデントレポートに分析、第 16 回日本緩和医療学会学術大会、札幌、2011 年 7 月

榎原克也、東さやか、松山和代、山内一恭、本田芳久、小森勝也、三嶋秀行、辻仲利政：My5-FU を用いたフッ化ピリミジン系抗がん剤による個別化治療の検討、第 49 回日本癌治療学会学術集会、名古屋、2011 年 9 月

加藤あい、庄野裕志、榎原克也、上野裕之、水谷麻紀子、山村順、四方文子、増田慎三、小森勝也、高齢者における TC 療法の安全性の検討、第 19 回 日本乳癌学会学術総会、仙台、2011 年 9 月

阿部正樹、木原理絵、中筋千佳、服部雄司、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也：当院におけるトルパプタンの使用報告、第 21 回日本医療薬学会年会、神戸、2011 年 10 月

東さやか、渡辺雄太、榎原克也、山内一恭、本田芳久、小森勝也：食道がんに対する DCF 療法施行患者の栄養状態と有害事象との関連性、第 21 回日本医療薬学会年会、兵庫、2011 年 10 月

関本裕美、服部雄司、島田志美、梶川輝美、田中康晴、中筋千佳、木原理絵、阿部正樹、山内一恭、本田芳久、小森勝也：ICU における薬剤師介入による効果の検証、65 回国立病院総合医学会、岡山、2011 年 10 月

奥田直之、中本由香、島本裕子、河合実、山内一恭、小森勝也：眼内注入用ベバシズマブの有用性の調査、第 65 回国立病院総合医学会、岡山、2011 年 10 月

北川智子、小野恭子、木島かおり、多和昭雄、楠岡英雄、辻本朋美、山地宏和、原輝文、青野寛之、是恒之宏：治験を効率的に進めるために考えられることー2010 年度「国立病院機構近畿ブロック内治験実務担当者会議・EFPIA 臨床部会意見交換会」からー、第 32 回日本臨床薬理学会年会、浜松、2011 年 12 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、栞原健、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、1日1回投与 darunavir/ritonavir の使用成績、第25回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011年12月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、栞原健：Ritonavir の剤形変更に伴う薬物動態の比較検討および自覚症状の変化に関する調査、第25回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011年12月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、上平朝子、白阪琢磨、栞原健：抗 HIV 薬の簡易懸濁法適用に関する検討、第25回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011年12月

櫛田宏幸、吉野宗宏、矢倉裕輝、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における Atazanavir の長期投与成績、第25回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011年12月

槇原克也、東さやか、小森勝也、山本和義、平尾素宏、藤谷和正、辻仲利政：進行・再発胃癌に対する2次・3次治療での CPT-11 の毒性と総ビリルビン値の関連、第84回日本胃癌学会総会、大阪、2012年2月

東さやか、槇原克也、山内一恭、本田芳久、小森勝也、藤谷和正、山本和義、平尾素宏、辻仲利政：胃癌術後補助化学療法における S-1 のコンプライアンスに影響を及ぼす要因の検討、第84回日本胃癌学会総会、大阪、2012年2月

槇原克也、東さやか、松山和代、山内一恭、本田芳久、小森勝也、安井昌義、池永雅一、三嶋秀行、辻仲利政：My5-FU を用いたフッ化ピリミジン系抗がん剤による個別化治療の可能性、第1回臨床腫瘍薬学研究会学術集会、東京、2012年3月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、槇原克也、河合実、土井敏行、早川直樹、上野裕之、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也、白阪琢磨、薬剤師外来の取り組み-HIV チーム医療における薬剤師の役割-、日本薬学会第132年会、札幌、2012年3月31日

B-6

槇原克也、東さやか、藤谷和正、小森勝也、山本和義、平尾素宏、辻仲利政：進行・再発胃癌に対する2次・3次治療での CPT-11 の毒性と総ビリルビン値の関連、第9回関西がんチーム医療研究会、大阪、2011年9月

松山和代：自己決定の時間を要する肺癌患者の一例、第4回大阪緩和ケアチーム医療カンファレンス、大阪、2011年10月

槇原克也、松山和代、上野裕之、山内一恭、本田芳久、小森勝也・外来化学療法において薬剤師の薬学的管理がもたらす医療安全への貢献、第 33 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、2012 年 1 月

東さやか、槇原克也、山内一恭、本田芳久、小森勝也、藤谷和正、山本和義、平尾素宏、辻仲利政：胃癌術後化学療法における腎機能と S-1 の治療コンプライアンスへの影響、第 33 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、兵庫、2012 年 1 月

梅原玲緒奈、小野亜矢子、間麻里、槇原克也、早川直樹、上野裕之、山内一恭、本田芳久、小森勝也：メトトレキサート大量療法における注射液調製方法についての検討、第 33 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、兵庫、2012 年 1 月

福田良子、服部雄司、関本裕美、曾我部拓、若井聡智、山内一恭、本田芳久、上尾光弘、定光大海、小森勝也：急性薬物中毒患者における薬剤師の役割、第 32 回日本中毒学会西日本地方会、八尾、2012 年 2 月

村井彩紗、服部雄司、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也：心サルコイドーシスに対する薬物療法に介入した一症例：近畿国立病院薬剤師会学術集会、大阪、2012 年 3 月

B-8

吉野宗宏：当院における抗 HIV 薬服薬指導の実際、第 1 回九州抗 HIV 薬勉強会、福岡、2011 年 4 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における薬剤師の役割、東海ブロック AIDS/HIV 薬剤師研修会、名古屋、2011 年 5 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における薬剤師の役割、第 10 回埼玉 HIV 感染症研究会、埼玉、2011 年 6 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の服薬指導-院外薬局との連携を含めて、第 2 回九州抗 HIV 薬勉強会、福岡、2011 年 6 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方-患者アンケートから見えてくるもの-、第 99 回中央区医薬品情報研修会、大阪、2011 年 6 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における薬剤師の役割、北陸 HIV 臨床談話会、福井、2011 年 7 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の現状と服薬指導、平成 23 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2011 年 9 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方—患者アンケートから見えてくるもの—、第 4 回保険薬局 HIV ミーティング、大阪、2011 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際、平成 23 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2011 年 9 月

松山和代、上田純子：がん疼痛治療の実際：H23 年度第 2 回がんサポートチームセミナー、大阪、2011 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の現状と服薬指導、平成 23 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2011 年 10 月

吉野宗宏：HIV 感染症の現状、第 13 回 POP ミーティング（患者会主催）、大阪、2011 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際、平成 23 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2011 年 10 月

吉野宗宏：長期 HAART の現状と課題、NPO 法人ネットワーク医療と人権、福井、2011 年 11 月

島本裕子：抗菌薬の適正使用、第 24 回法円坂フォーラム、大阪、2011 年 11 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導、平成 22 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2012 年 1 月

土井敏行：大阪医療センターでの治験の効率化に向けた取り組みについて—症例集積性の向上—、関信地区国立病院等治験連絡会、東京、2012 年 1 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導、第 4 回九州抗 HIV 薬勉強会、福岡、2012 年 2 月

吉野宗宏：抗 HIV 療法-最近の動向、第 4 回大阪抗 HIV 薬勉強会、大阪、2012 年 2 月

吉野宗宏：HIV 感染症における薬剤師の役割、第 5 回大阪感染制御薬剤師研究会、大阪、2012 年 3 月

土井敏行：治験事務局業務について、平成 23 年度近畿ブロック医療技術研修「CRC 初級者研修会」、大阪、2012 年 3 月

土井敏行、石山 薫、小野恭子、木島かおり、北川智子、柚本育世、辻本有希恵、多和昭雄、是恒之宏、楠岡英雄：症例集積性の向上を目的とした病診連携・病病連携について、平成 23 年度治験推進地域連絡会議、大阪、2012 年 3 月